幸せを実感できるまちへ 「市民の声」を紹介

の下でル ては、 \mathcal{O} 支払っています。 か。 が 度の検討を加えて 終わる予定だが、 なります。 に、 にきめ細かに応えていくまち、 力を補い合いながら、多様なニーズ とではないと思うが。 A A A Q Q Q ような継続のあり方が良い テーマ 「協働のまち」であると考えます 行政が基準を示すべきではない プボランティアにならないよう 懇談 と見直、 協働の こルール化していただくことに振興会ごとに、自主的な判断 効に活用して 規定に基づいて旅費や謝金を 市が主催する会議では、 振興会長が会議などで多忙だ Ļ 市民と行政が同じ目標を共有 ボランティアで何かをするこ協働のまちとは何か。住民が 同交付金は26年度に中間評価 まち 相互理解のもとで持てる しを行う まちづくり交付金を有 継続はあるのか。している。27年度で 地域の会議につい と づく きます。 予定です。 Ŋ \mathcal{O} に か。. それ か制 市 ど Ô つ い て

交付金事業の事例発表や情報交換、 先進地視察などを考えています。 成は課題です。 Q 若い人たちは皆忙しく、 について具体的に聞きたい。地区振興会を支える人材養成 コミュニティを担う人材の育 現在は、 まちづくり 次の

れてほしい。 Q 青年層の育成にもっと力を入 集会施設を整備するなどして

考えています。 らえています。活動拠点などの支援来たときに相談してほしいと 活動目的を持った集まりが出

> は、 その後の対応となり ます。

ます。 生活の見直しやまちづくりを考える 展望できる施策が必要ではない 機会にもなると考えています。 A Q 結婚について考えることは、 出会いの場が少なくなってい 夜勤など勤務形態が複雑化し こ 今の世の中は若い 環境だ。 この世代が将来を 人には厳し か。

人は多く、 Q)く、市全体で取り組むべきで80人が参加した。結婚したい 羽田地区で「婚活」をしたが

はないか。 市 もコーディネ トに取り組

模での取り組みを考えています。 A んでいますが、 より大きな規

懇談 財政見通しと行財政改革

テーマ

か 政課題となっていたが、現状はどう 水沢病院・土地開発公社が財 Q 合併時には、 岩手競馬・総合

済情勢の23年度も黒字化

して

て行うことができました。

厳し

ています。 災支援をい できる見込みです。 A ます。借入金を十分返すことが 化し、医師も18人体制が整っ 総合水沢病院は23年度に黒字 ただき、 岩手競馬は、 施設 \mathcal{O} 改修を全 震

師は19人体制、総合水沢病院の医、ここに、3つの課題ともに解 る予定です。 土地開発公社は、 計画的に債務の解消を図 三セク 債 \mathcal{O} の借り入

広報おうしゅう 13

	必要があります。それでも不足する	500億円を切るまで抑制していく	170億円抑制し、27年度までには	に膨らむ約670億円の歳出規模を	債(以下、 三セク債)のため 一時的	解散に伴う第三セクター等改革推進	きますが、24年度に土地開発公社の	歳入歳出ともに総額が減少してい	グラフ化したものです。 0として、今後の歳入歳出の傾向を	市政運営を行う場合の歳出額を10	しが、左の図です。これまで同様に	行革効果を見込んだ市の財政見通	ま 其的た。 東政 見 正 し	長用句に才女見重し
ついい」が可い目標に可いつにあり	協働のまちづくりは、行政と市民	が輝いていきます。	れることで、30の地域の歴史と個性	――。そうした地域自治が繰り返さ	権限を持ち、実現できる財源を持つ	ちで、地域づくりを考え、決定する	まちづくりに取り組みます。自分た	市は、市民の皆さんと共に協働で	協働の樹を育てよう		程度を貯金できる見込みです。	は収支のバランスが取れて、2億円	収支のバランスを保ちます。44年に	場合は、財政調整基金を取り崩して

■歳出(改革前)を100とした場合の歳入などの推移

歳入

100

98

96

ちを目指

盲し共に歩んでいき

かり輝くま

きま

しょう

収支黒字部分を

②財源不定に

備え基金積立て

財政調整基金等

促す役割を一層重要なものとして担興会などの組織活動を支援し自立を

いきます。地区センター職員も、振財政支援と人づくりの両面を支えて

母世

母世

SM

協働の樹

歳出(改革前)

赤字(財源不足)

H24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44

「理想の奥州市」を実現するために

皆さんの創意と工夫が必要です

災害

少子化

高齢化

細やかで新しいサ

ービスを構築し

画一的な行政サービスを補う、 太い幹を育てなければなりません。 などが多様な分野に根を張り、

きめ

市は、

地域の自治力を高めるため、

は、

①行財政改革を推進し、

改革効果により歳入に見合う歳出規模となるまでの期間 ③財源不足を基金から取崩し

(~H28) 収支の黒字化 (H29~) 財源不足を圧縮

歳出(改革後)

治会、

町内会、

地区振興会やNPO

皆で

大きな実りをもたらすためには、白の樹を育成することに似ています。

自

母世

伝統芸能

運動会

教育・文化

健康・スポー コミュニティ

Ð,

ボランティア団体

コラボレ

NPO法人

研修

自主防災組織

講座

防災・防犯

7

清掃活動

環境

地区振興会

個性

自治会・町内会

皆さんか同し目

核に

f

カイ

7

